

## 04 医療機関で何をしてもらえるの？

病院を受診すると、問診や発達検査を受けたり、その後療育（発達支援）を勧められたりすることもあります。

「診断がついたらどうしよう」と不安になる方もいらっしゃるかもしれません。小さいお子さんですと、はっきりした診断がつかず、「経過観察」と言われる場合もあります。経過観察を受けることで、定期的にお子さんの様子を見てもらい、今の段階でできる対応について教えてもらえます。

診断がつかどうかは、医師に相談してみてください。はっきり診断名を言われる場合もあれば、「ちょっと多動気味だね」「自閉スペクトラム症に当てはまる場所もあるけど、知的には問題ない」といわれることもあります。

診断名は、例えば児童発達支援などの福祉サービスを利用したり、園や学校などで配慮を受けたりする時に必要な場合があります。

また、はっきりした診断名がつかなくても、「～傾向」ということを知ると、その情報をもとにいろいろな対応が取れるかもしれません。病院によっては、個別の訓練等を受けられることもあります。

医療機関で聞いた情報を生かして、日々の生活に役立ててください。

### 体験談



白黒ハッキリさせたくて受診したのに、医師からはあいまいな答え。『要するに、障害なんですか？ そうじゃないんですか？』と医師に詰め寄った私。『お母さんは身長 170 センチを高いと思うか、180 センチを高いと思うか、それと変わらないです。診断名にこだわらず、少しでも特性があるのなら、子どものためにできることを考えてあげたらどうですか？』との医師の言葉。目からうろこでした。息子のために今できることを精一杯やろうと決めた日でもあります。



ST（言語療法）で一日にあったことを文にして話すこと（日記のようなこと）をやってくれて、文章の組み立てや自分の行動を言葉にする力になった。

OT（作業療法）の的当て遊びは、ルールを覚えたり、的に当てて集中力を付けたり、投げ方を学べた。家でも参考になることが多く、園にも訓練の様子を伝えられたのが良かった。



「自閉症です。」と、はっきりドクターに伝えられたときは呆然としました。

「言葉が遅いね」から8ヶ月くらいでの診断で、当時「障がい」のことはほとんど知らず『自閉症は治りますか？』と聞いたことを覚えています。

ドクターから「病気ではないので治ることはありません」と伝えられてショックが強く、自宅までの間無言になったほどでした。

今思えばその日から「障がい」のことは知ることを始めた日ではありました。

はっきり言われるのは保護者としては辛く、全ての方に良いことなのかはわかりませんが、早い時期からリハビリなどの療育へ進むことをドクターよりアドバイスをいただけたことは大変良かったと思います。



自分自身、もともと「障害」ということへの抵抗感が無いので、「この時点で受容できた」とかあまり意識がない。なんとなくユニークだなあ。ああ、やっぱりそういう理由があったんだね、という感じ。とは言え、よかれと思って行った数々の教室やイベントなどで「できない我が子」を見て辛かった。「なんでできないの!？」という言葉子どもに投げつけてしまうことも正直あった（私も人間ですから）。今思い出すと子どもに対して申し訳ない。



病院の心理セッションで、肌に触れてくれることがよかった。抑揚のある話しかけと大きさにほめてくれることがよかった。



園で座ってられない、活動に参加できないなどがあり、年長の時から薬の服用を始めました。始めてから1カ月半ほど経った頃、短い時間ですが座っていられたり、といった様子が見られるようになりました。



小学校に入ってから、集中力が続かないことや学習の難しさがあり、2年生から薬の服用を始めました。人の話を聞くことができたり、学習にも前向きな姿勢が見られるようになりました。少し表情も柔らかくなってきた気がします。



薬が効くかもと試したが、食欲不振など気になる副作用が出てきて中止した。お医者さんにも「薬はお手伝いするだけ、本人の気持ちと環境を整えることがまず大事」と言われたけど、周囲は「飲まないの?」と言ってきて腹が立った。こっちも「薬が効いたら良かったのに」と思う時もあるが、大声で叱らないようにしたり小さいことでも具体的に伝えるとか、本人への対応と環境を整えることを心掛けている。